

# 三遊亭らん丈 後援会会報

## 『二大政党制について』

三遊亭らん丈

衆議院の選挙制度を中選挙区制から、小選挙区比例代表並立制へ変更すること、国会において決めたのは、すでに今から十年以上前の一九九四年のことでした。

この制度が導入されたことによって、日本の政党政治は大きな変転を余儀なくされました。逆にいえば、政治を変えるために、この制度が導入されたわけです。この制度が導入されたことによってもたらされた大きな変化の一つに、小政党が存在できなくなったことが挙げられ、それと表裏一体をなし、二大政党制へと政党が収斂されることになりました。

こうして中選挙区制のもとでは存在し、

機能していた多くの小政党が次々と姿を消していったのです。日本新党、新党さきがけ、社民連、新党平和、第二院クラブ等々、枚挙に暇がありません。

その結果現在では、国政レベルにおいては自民党、民主党、公明党、共産党、社民党の五党が残るのみですが、それは小党分立状態ではなく、自民、民主の二大政党がまずあり、公明は自民と連立与党を組むことによって存在感を示し、共産、社民の両党は護憲勢力としてかろうじてその命脈を保っている存在に過ぎません。さて、その二大政党の両翼を担う、自民と民主です。

この両党間において、明確な違いは、

いったいどこにあるのでしょうか。

それは、橋木俊詔（京大教授）が指摘する（朝日新聞二〇〇五年十一月二日夕刊）ように、欧米の二大政党の対立とは異なっているので、以下に橋木教授の論評から引用します。

いやむしろ、この明確な対立を与党も民主党も意図的に避けたとも言える。なぜならば与野党それぞれの内部に、リベタリアン（新自由主義）とリベラル（平等主義）の人を抱えているし、あるいは効率優先派と公平優先派の双方がいたからである。そうみなせる一つの証拠に、与野党ともに地方や弱者の切り捨てに反対する人が、少なからずいることがある。もう一つには、従来は弱者を擁護し、平和主義を唱えていた公明党が政権与党に入ったことにより、立場が微妙になっっている。

2005年12月1日発行  
三遊亭らん丈後援会  
第26号 頒価100円 〒194-0022  
【事務所】町田市森野5-26-8  
【URL】<http://www.ranjo.jp/>  
【E-mail】[machida@ranjo.jp](mailto:machida@ranjo.jp)  
TEL 042-732-2004

日本はまだ欧米の二大勢力の対立のよ  
うに、政治・経済思想の区別が明確では  
ない。その意味では、与党が割れ、民主  
党も割れ、社民党が西欧の社民に近づ  
き、共産党が伝統的な左翼主義を放棄す  
れば、リバタリアンとリベラルの二つに  
再編成され、思想が明確に区分された真  
の意味の二大政党の対立となる。

そのような下での選挙であれば、国民  
も確信をもってどの党に投票するかが決  
められたのではないか。今回の選挙は郵  
政民営化だけで争われたので、国民に戸  
惑いがあったのかもしれないし、政治・  
経済思想の対立に基づいて、日本の進路  
を決める本格的な選択ができなかった、  
というのが筆者の解釈である。

なるほど、たしかに現在の自民、民主  
両党の相違を簡潔に表せば、上記のよう  
なことになるでしょう。

そのうえで、自民と民主の一部は「保  
守」を体現している政党であるという意  
見に、異論を差し挟む人はいません。

では、保守とはいったいなんでしょう  
か。

「保守本流」の嫡子と目されてきた加  
藤紘一元自民党幹事長にご登壇いただき

ましよう。

「よき伝統を守ると言う意味なら、戦  
後の保守政治は日本社会を余りに変えす  
ぎた。レッセフェール（自由放任）の自  
由主義という意味なら、戦後保守は政府  
を余りに大きくし過ぎた」

加藤氏の思い描く保守とは、地域社会  
や国のなかで「まとめる側、執行部側」  
に常に立ち、かじ取りに責任を持つ意識  
を言う。「要求する側なら、誰にでもつ  
とまる。まとめ、まとめ、泥をかぶって、  
無口にまとめ。これが保守の醍醐味」

この発言からほの見えるのは、自民党  
とは広範な意見を受け容れ、そのまとめ  
役に徹する、つまり、政治学的にいえば  
包括政党 (catchall party) を体言した  
政党である、ということです。

ただ、肝に銘じなければいけないのは、  
どんな権力でもそれを維持し続けられ、  
必ずや腐敗する、という古今東西を問わ  
ぬ経験則から、自民党も決して逃れるこ  
とができない、ということですよ。

そうであれば、今年立党五十年を迎え  
た自民党は、一九九三年から翌年にか  
けての約一年間政権を手放したのみで、あ  
とはずっと政権を握り続けているのです

から、余程気をつけなければ自浄作用が  
働かなくなってしまう。

それを監視するのは、他ならぬ我々有  
権者であり、それでも有効に機能しない  
場合は、自らその内部に入る、というの  
もひとつの方法です。

つまり、権力を制御する方法は、内から  
と外からの二種類ある、ということですよ。

その際よくが共感を覚え、自らの存立  
基盤を置くのは「リベラル」であり、「公  
平優先派」です。

なぜならば、社会的弱者を救うのが政  
治である、というのがよくの根源を担う  
考えかただからです。

その際重要なのは、千葉大法経学部の  
広井良典教授の次のような指摘 (二〇〇  
五年十一月二十一日朝日新聞朝刊) です。

「高福祉・高負担か、低福祉・低負  
担か」「市場経済に委ねる方向か、より  
社会保障を充実させる方向か」などの対  
立軸を国民が考え、選択する必要がある。  
これまで日本は異なる価値観や政策  
を提示し合い選択する、二大政党制的な  
状況を経てこなかった。」

このように、対立軸を明示したうえで、  
骨太の論議をするべきなのです。

## 『ブログを始める』

## 三遊亭らん丈

二〇〇一年の米国での同時多発テロは、世界に様々な波紋を巻き起こしましたが、そのひとつに、ブログの爆発的ともいえる普及が挙げられます。

同時多発テロにおける安否情報のやり取りに米国ではブログがさかんに使われ、大なる威力を発揮したために、その影響を受け、日本でもブログが急速に普及し、二〇〇四年は日本の「ブログ元年」といわれるほどのヒット商品となったのです。

すでに百万以上ものブログサイトが出来る上がり、今年二月に自宅で一回以上、ブログサイトにアクセスした方が、約一四九五万人。一年前の三倍以上に急増し、いまや家庭でインターネットを利用する人の四割もの方々が、このブログを利用して利用しているのです。

ここで念のためにおさらいをしておきますと、ブログとは、「ウェブログ」の略称で、「ウェブ」がインターネットのホームページ、「ログ」が英語で記録や日記を指すことから、インターネット上で公開される日記のようなホームページのこと

とを指して、ブログというのです。

そのブログをぼくは二〇〇五年七月三十一日から始め、今日に至るまで、さすがに毎日ではありませんが、九割近くの日々、更新し続けています。

ブログプロバイダーは、「はてなダイアリー」と「楽天広場」を使っており、それぞれ『いやはやなんとも日記』<http://dhatenane.jp/ranjo/>と『年がら年中困惑記』<http://plaza.rakuten.co.jp/ranjo/>というタイトルです。

ただ、両方の内容が重複していることはお詫びしなければなりません。

加えて、SNSと呼ばれるソーシャルネットワークサービスでは、mixiとGREEにも参加しています。いずれも「らん丈」が、参加名ですので、ご興味をもたれた方は、是非アクセスしてください。

当然のことながら、らん丈のHPもあり、そのアドレスは<http://www.ranjo.jp/>です。

さて、ではなぜ、このように、決して少なくない媒体で、らん丈は情報を発信し続けているのでしょうか。

それは、*、*思い*、*があるからです。たとえば、「楽天広場」での『年がら年中困惑記』では、日記のカテゴリ欄があるのですが、そこで展開しているらん丈の日記内容は、文化、今日の出来事、落語、驚愕の現実、大学、経済、法学、政治、東京都町田市の九つに分類されています。つまり、大きく分けると、らん丈には、以上の九つの関心事がある、ということ

です。ここで、そのうちの一つ、「政治」について少し触れましょう。日本が現在とつている政治形態は、いままでもなく、民主主義であり、それは、*、*デモクラシー*、*を翻訳した言葉です。

では、デモクラシーによる政治とは何かといえ、丸谷才一がいうように朝日新聞二〇〇〇年四月五日、*、*身分<sup>だ</sup>の財力<sup>だ</sup>のによらないで、言語の力で民衆を説得して、それによって政治を行うことです。だから、言語の使い方が大切になります。

*、*そう<sup>です</sup>。政治とは、身分でもなければ、財力でもない、言語の力だと、らん丈は信じているので、このように、様々な媒体を通じて、*、*思い*、*を、発信してい

るのです。

あるいは、早大大学院ファイナンス研究科の野口悠紀雄教授は、朝日新聞二〇〇二年三月三〇日の夕刊で、「日本政治に欠落しているもの」という一文において、このように記しています。

日本の政治に何が欠けているから、こうなるのか。

識者は言う。政治倫理。政策決定過程の透明性。政・官の明確な役割分担。強力な政治資金規正。等々、等々。

これらが欠けているのは、間違いないことだろう。しかし、日本の政治における最も深刻な欠落物は、こうしたものはあるまい。

私の考えでは、それは、人々を動かすことができる「言葉」である。

このように、野口教授もまったく同じ指摘をしています。

また、品川正治経済同友会終身幹事は、こう発言（二〇〇〇年五月二〇朝日新聞）しています。

痛みを伴う改革を進めるには、指導者の「志」の高さが求められる。改革の方向を天下に示し、国民を感動させる資質もいるだろう。

たしかに、感動させる能力は、政治家にとつて必須の才能です。

それが証拠に、シェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』において、アントニーは、熱狂的な支持を得ていたブルータスを言葉の力によって弾劾し、圧倒的な支持を得ることに成功したのです。

前述の野口悠紀雄教授が指摘するように、言葉だけの力によって、人々を動かしたのだ。政治の本質とは、このような技術であろう。

我が意を得た思いがしたので、ここに改めて掲示した次第です。

「どうしまショー」  
「ひらりと町田寄席」  
十二月二日(金)午後六時半 開演  
町田市民ホール・大ホールにて 前売：千円  
今号は、選挙準備と重なり、発行が遅れに遅れてしまいました、大変に申し訳ございませんでした。

町田市でお知り合いがいらっしゃいましたら、どうぞ、三遊亭らん丈を、よろしくお願い申し上げます。芸名にて登録予定です。



＝ 次々回「どうしまショー」→「らん丈『町田』勉強会」2006年1月7日(土)、2月18日(土)午後2時～4時 町田市民ホール 第4会議室 ＝

**「三遊亭らん丈」後援会入会要項**

入会金(会員証作製費+郵送料)として入会者全員から二千円申し受けます。

年会費は四千円ですが、池袋演芸場で行う「どうしまショー」の入場券(二千円相当)を年間で二枚(四千円相当)差し上げます。

◎入会金二千円+年会費三年分一万二千円→一万八〇〇円、合計二二、八〇〇円

年会費を三年分前納して下さった方には、10%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費二年分八千円→七、六〇〇円、合計九、六〇〇円

年会費を二年分前納して下さった方には、5%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費一年分四千円、合計六、〇〇〇円

会員証と後援会会報のみ御送りします。

※振込先口座※  
郵便振替口座0010011730458  
加入者名・三遊亭らん丈後援会

《東京三菱銀行・町田支店》  
普通預金・2085250 三遊亭らん丈  
《みずほ銀行・町田支店》  
普通預金・8046459 三遊亭らん丈  
《三井住友銀行・町田支店》  
貯蓄預金・7264788 三遊亭らん丈  
《UFJ銀行・町田支店》(二〇〇五年末日まで)  
貯蓄預金・1096152 三遊亭らん丈  
《りそな銀行・町田支店》  
普通預金・1093822 三遊亭らん丈